

<主要株価指数>		
	終値	前日比
日経平均※	15806.13	137.53
NYダウ	17,067.56	-30.89
DAX(独)	9,507.02	27.99
FTSE100(英)	6,829.17	3.86
CAC40(仏)	4,378.33	-1.40

<外国為替>※		
	ドル円	ユーロドル
	105.22 円	1.3126 ドル
		-0.00 ドル

<長期金利>※							
	日本	米国	英国	ドイツ	フランス	イタリア	スペイン
	0.538 %	2.421 %	2.440 %	0.931 %	1.315 %	2.456 %	2.273 %
	0.033 %	0.078 %	0.057 %	0.049 %	0.060 %	0.034 %	0.020 %

<商品>		
	NY原油	NY金
	92.88 ドル	1264.30 ドル
	-3.08 ドル	-22.20 ドル

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。  
(出所) Bloomberg

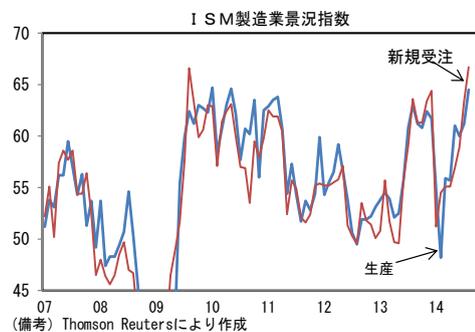
(円) 日経平均株価 13:27 現在

(ドル) NYダウ平均株価

USD/JPY

### 【海外株式市場・経済指標他】 ~ISM: 異例の高水準から更に改善~

- ・ NYダウ平均株価は前日比▲30.89ドルの17067.56ドルで取引終了。S&P500は2000キープ。
- ・ 8月ISM製造業景況指数は59.0とポジティブサプライズ。57.0への軟化を見込んでいた市場予想に反して前月(57.1)から改善、2011年3月以来の高水準を記録した。新規受注の強さに航空機メーカーの超大型受注が一部影響した可能性はあるが、それを割引いたとしても他項目が強く改善している。製造業セクターの活況に疑いの余地はない。内訳は生産(61.2→64.5)、新規受注(63.4→66.7)が異例の高水準から一段と伸び、雇用(58.2→58.1)も高水準維持、入荷遅延(54.1→53.9)が高止まりするなか、在庫(48.5→52.0)は積極的に積み増された。向こう数ヶ月、生産活動のモメンタムは加速に向かう公算大。製造業部門の雇用者数も堅調に推移する見込み。
- ・ 8月PMI(Markit)確定値は57.9と速報値から僅か0.1pt下方改定。ISM同様、異例の高水準で製造業セクターの活況を映し出している。ただ、ISMとMarkitPMIはもはや持続不可能な領域に達している。地区連銀サーベイ平均は8月に軟化し、両指数と乖離が生じた。9月はさすがに軟化か。



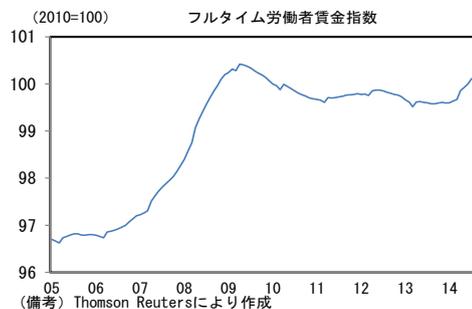
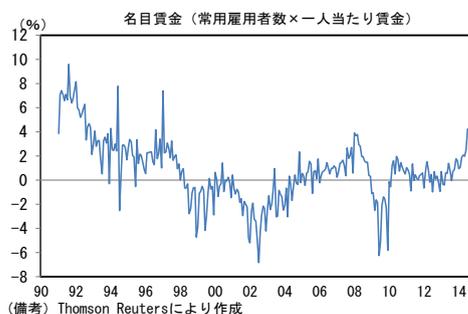
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

## 【外国為替相場・債券市場】～105突破～

- ・前日のG10通貨はGBP、NZD、JPYの弱さが目立った一方、北欧通貨が堅調。USD/JPYは日本時間に急伸した後、米指標を受けて一段と上伸、105を回復（1/10以来）。EUR/USDの下落は一服。スコットランド独立支持派の増加を受けてGBPは最弱。3日日本時間でUSD/JPYは午後105.31を付け、年初来高値105.45に迫る場面があった。豪中指標改善を受け、AUD/JPYは一時昨年5月水準を回復。
- ・米10年金利は+7.8bpの2.421%。ECB理事会を控えた欧州債の利益確定売りに追随、米指標を受けて相場は一段と軟調に推移。欧州債市場も総じて軟調。独10年金利は+4.9bpの0.931%で引け。ただ、短中期ゾーンは比較的堅調で3年ゾーン以下のマイナス金利は継続。GIIPS債も総じて軟調。欧州株は区々。経済指標は8月ユーロ圏PPIが前年比▲1.1%と予想に一致。英国では8月建設業PMIが64.0と予想外（61.5）に前月（62.4）から改善。

## 【国内株式市場・経済指標他】～TOPIXは一時高値更新～

- ・日本株はUSD/JPY上昇を受けて大幅高で寄り付いた後、もみ合い。TOPIXは一時高値更新（12:45現在）。
- ・日本の8月サービス業PMIは49.9と前月（50.4）から悪化。50を割り込んだが、新規受注が50を維持したほか、9月には悪天候の逆風が和らぐことが期待される。これらを踏まえれば先行き見通しは悪くない。
- ・昨日発表の7月毎月勤労統計で現金給与と支給総額は（下方修正含みながら）前年比+2.6%と急加速。夏のボーナス増を反映して特別給与が+7.1%と非常に強かったほか、所定内給与も+0.7%と顕著に増加。所定内は確報段階でも明確にプラス圏を維持するだろう。マクロ総賃金（常用雇用者数×一人当たり賃金）は前年比+4.2%とここ数ヶ月の2%前半レンジを上抜き、90年代前半の上昇率に達した。ボーナス要因が剥落する8月以降は鈍化が見込まれるものの、物価上昇分（除く増税分）を相殺するには十分だろう。足もとの株高による消費刺激効果と相俟って消費を下支えしよう。
- ・8月中国非製造業PMIは54.4と3ヶ月ぶりに反発。ただし、新規受注（50.7→50.0）の低下はネガティブ。ヘッドライン改善は素直に好感できない。他方、HSBC版のそれは54.1と前月（50.0）から大幅改善。総合PMIは52.8に改善し、7月ハードデータから浮上したダウンサイドリスクを一部払拭。



## 【注目点】～No Question～

- ・広範な指標で米経済拡大が確認されるなか、唯一それに疑問を呈したのは7月個人消費支出（PCE）。しかしながら、結論を先取りすると減速は一時的である可能性が高く、悲観は不要と判断される。米経済拡大をカタリストにしたポジションを手仕舞う必要はないだろう。名目PCEは前月比▲0.1%と寒波のリバウンド局面後で初めて減少。エネルギー消費の大幅減が全体を下押ししたため、除くエネルギーでみれば+0.1%と辛うじて増加を維持したものの、耐久財消費も▲0.7%と弱く、精彩を欠いた。とはいえ、個人所得が+0.2%と確り伸びたうえ、ガソリン価格下落とモーゲージ金利低位安定という追い風も吹く。消費を取り巻く環境は良好でそれを映じて消費者信頼感も改善している。消費は年後半に貯蓄率低下を伴って再加速するだろう。

